

令和8年1月

魚津市定例記者会見

日時：令和8年1月5日(月) 午後1時30分～午後2時5分

場所：市役所 第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞社、北陸中日新聞、
NHK富山放送局、KNB、BBT、NICE TV

市当局出席者：市長、情報広報課長



1 市長からの発表事項

(1) ^{ミラペイ}MiraPayプレミアム商品券の販売について（商工観光課）

12月の魚津市議会定例会で追加補正により計上しました物価高騰対策について、食料品等の物価高騰による市民生活の負担軽減を図り、消費を下支えする趣旨で、^{ミラペイ}MiraPayによるプレミアム付きデジタル商品券を発行します。

全体で2万5千セット分の予算を確保しており、2回に分けて実施するうちの、第1弾の販売になります。

今回の^{ミラペイ}MiraPayプレミアム商品券は、スマホアプリによる限定販売となります。

^{ミラペイ}MiraPayにつきましては、令和3年の事業開始から、カード又はスマホアプリにより電子地域通貨としてご利用いただいていたまいりました。

（今回の^{ミラペイ}MiraPayプレミアム商品券を利用する場合、）カードしかお持ちでない方は、スマホにアプリをインストールする必要があります。また、^{ミラペイ}MiraPayのアプリは、昨年（令和7年）9月に、^{トヤマワンウォレット}TOYAMA ONE Wallet（以下「新アプリ」という。）という富山県の公式アプリに移行したため、移行の手続きが済んでいない方は、移行する必要があります。

移行前の旧^{ミラペイ}MiraPayアプリの登録者数は、約9,000人で、新アプリの登録者は約1,000人です。

新アプリの登録及び移行に伴うご相談、残高又は未使用ポイントがある等のご相談に対応するため、相談窓口を設置するとともに説明会を開催し、新アプリ登録等のお手伝いをさせていただきたいと考えております。

利用者登録相談、応募受付、販売について広く周知いたしまして、たくさんの市民の方に商品券をご利用いただきたいと思いますと思っております。

第2弾1万セットにつきましては、第1弾1万5千セットの販売状況を踏まえ、改めて時期等を設定し、お知らせします。

※以下資料に基づき説明

2 質疑応答の内容

○ミラペイプレミアム商品券の販売について

《記者からの質問》

MiraPayプレミアム商品券の基本的なこと、お米券ではない理由などについて具体的に教えてください。

《市長回答》

スマホアプリを利用したのプレミアム商品券の販売は、今回が初めてです。

MiraPay加入促進のためのプレミアムポイントの付与は、令和3年及び令和4年に実績があります。

今回の商品券は、魚津市民が対象で、利用できる店舗は魚津市内の登録店となります。

旧MiraPayアプリでは利用できないので、新アプリへの登録・移行が必要になります。

利用者相談窓口の設置や説明会を開催し、商品券を販売する前に新アプリに対応するためのサポートをします。新アプリに移行した理由としては、富山県公式アプリという大きなお財布で電子地域通貨を運用した方が、コストが低いからです。

お米券ではなく商品券にした理由としては、魚津市内の状況をみると、農家もあり、実際にお米券でお米を買うニーズが高くないのではないかと考え、今回は選択しない判断をしました。また、できるだけ広い範囲で行き渡るようにしたいと考え、プレミアム商品券の販売を紙で考えましたが、紙だと実施する時期が遅れるということがあり、できるだけ早く実施するために電子通貨を利用することにしました。

ただ、スマホを使っただけの販売になりますので、スマホを持っていない方、使い慣れていない方について、どういうふうに浸透させていくかが課題です。

今回、物価高騰対策の重点支援交付金を活用して、MiraPay電子地域通貨の普及、拡大にもつなげたいと考えます。

○富山地方鉄道について

《記者からの質問》

富山地方鉄道の廃止の判断が先送りになりましたが、新しい年を迎え今後の取組についてお聞かせください。

《市長回答》

沿線3市1町での「富山地方鉄道鉄道線のあり方調査」については、今年度（令和7年度）末に調査結果がまとまります。

その結果を踏まえ、協議していくことになります。（本年の）夏までには、ある程度の方向性を出す必要があると考えております。富山地方鉄道のあいの風とやま鉄道への乗り入れについても、検討の^{そじょう}俎上にのせてほしいという思いもあり、調査内容にも若干盛り込まれていくと思っております。